

地方独立行政法人筑後市立病院経営強化プランに係る実績評価について  
(評価対象事業年度：令和5年度)

令和6年10月15日  
筑後市

1. 評価結果

経営強化プランは地方独立行政法人筑後市立病院第4期中期計画との整合を図り策定を行っているため、同中期計画の実績評価をもとに経営強化プランの評価として以下のとおり整理するものである。

医療の質における項目（地域医療機関との連携や地域包括ケアシステムの推進）では多くが目標を上回る一方、医療機能における救急車応需率が目標を下回るなど、主に急性期医療に関わる項目に課題が残る。しかしながら、令和5年度は新型コロナウイルス入院患者の一時的な増加に伴い救急車の応需率は低下したが、救急車搬入数自体は前年から増加した、あるいは、全国的に患者数がコロナ禍以前に戻っていないなど、考慮すべき状況もあるため、動向を注視しなければならない。また、経営の効率化に係る項目では、多くの項目で改善の取り組みが求められる状況となっている。

紹介受診重点医療機関の認定による外来収益単価の増加など、取り組みによる成果が見られるものもあるが、筑後市立病院の実績総括においても記載されているとおり、病床利用率の上昇など、さらなる取り組みが必要である。

循環器内科、小児科、放射線科の常勤医師不在など、医師不足が顕在化している状況から、将来においては、単独の病院のみでは解決しえない課題となることが考えられる。当該年度では具体的な実績に至らなかった公立八女総合病院や大学病院、近隣自治体病院などとの連携に係る具体的な取り組みを期待する。

2. 実績

(1)数値目標 経営強化プランに係る各数値目標に対する実績は以下のとおり。

項目			目標値 (R8 年度)	年度実績	達成状況	
2 役割・機能の最適化と連携の強化	4 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	1 医療機能に係るもの	救急車応需率	95.0%以上	89.4%	⬇
			筑後市消防本部の八女筑後医療圏内医療機関への搬送率	68.0%以上	69.7%	➡
			訪問看護+リハ件数合計	2,000 件 年以上	2,926 件	⬆
		2 医療の質に係るもの	医師との対話、病状・治療などに関する説明の満足度 (入外計)	平均点 4.0 点以上	4.3 点	⬆
			クリニカルパス適用率	40.0%以上	48.7%	⬆

		項目	目標値 (R8 年度)	年度実績	達成状況	
2 役割・機能の最適化と連携の強化	4 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	2 医療の質に係るもの	新規入院患者数	4,000人以上	3,453人	↓
			病床利用率	74.0%以上	67.0%	↓
			在宅復帰率(急性期病棟)	80.0%以上	92.3%	↑
			在宅復帰率(地域包括ケア病棟)	70.0%以上	82.9%	↑
		3 連携の強化等に係るもの	紹介率	50.0%以上	71.2%	↑
			逆紹介率	70.0%以上	90.7%	↑
			地域医療機関サポート率	60.0%以上	62.0%	➡
			公立八女総合病院との連携事例数	2事例以上	0事例	↓
		4 その他	初期臨床研修医数(年度当初)	2名以上	2名	➡
			地域医療支援室への相談件数	3,500件以上	4,267件	↑
			感染管理認定看護師数	2名以上	2名	➡
		経営の効率化等	1 経営指標に係る数値目標(数値は最終年度時点のもの)	1 収支改善に係るもの	経常収支比率	100.0%以上
修正医業収支比率	95.0%以上				84.4%	↓
営業収支比率	100.0%以上				91.1%	↓
病床利用率(再掲)	74.0%以上				67.0%	↓
2 収入確保に係るもの	患者1人1日当たり入院収益			55,600円以上	47,044円	↓
	患者1人1日当たり外来収益			15,100円以上	16,091円	↑
3 経費削減に係るもの	材料費対修正偉業収益比率			20.0%以下	20.3%	➡
	経費対修正偉業収益比率			17.0%以下	19.5%	↓
	減価償却費率(対医業収益)			7.5%以下	8.3%	↓
	器械備品減価償却率			80.0%以下	82.0%	➡
4 経営の安定性に係るもの	自己資本比率			33.0%以上	32.5%	➡
	常勤医師数			30人以上	30人	➡

(2)実績に対する筑後市立病院の総括

・地域の中核病院である公的医療機関として、地域の医療機関との連携をもって地域住民の命と暮らしを守る病院となるよう、全部門が目標達成に向けて業務に取り組んだ。しかしながら 2023

年の決算は、経常収支比率は 91.6%となり前年度比で+8.4 ポイント悪化し、純損失は約 3 億 6,500 万円（前年度比▲約 3 億 6,742 万円）の赤字となり、4 年ぶりの赤字計上となった。収支改善には、病床利用率の上昇が喫緊の課題であり、持続可能な医療提供体制を確保のため、経営基盤の安定化に向けて取り組んでいく。